

1 ごみの排出・処理状況

(1) ごみの排出状況の一覧

	平成 29 年度	平成 30 年度	対前年度※
ごみ総排出量	230.4 万トン	230.7 万トン	+0.1%
事業系ごみ排出量	53.4 万トン	53.5 万トン	+0.2%
生活系ごみ排出量	166.0 万トン	166.7 万トン	+0.4%
集団回収量	11.0 万トン	10.5 万トン	△4.1%
県民 1 人 1 日当たりの ごみ排出量	858 グラム	858 グラム	+0.0%
県民 1 人 1 日当たりの 生活系ごみ排出量	618 グラム	620 グラム	+0.3%
人 口	736 万人	737 万人	+0.2%

※端数処理により、計算が合わないことがあります。

(2) ごみの処理状況の一覧

	平成 29 年度	平成 30 年度	対前年度※
リサイクル量	55.2 万トン	55.0 万トン	△0.3%
リサイクル率	24.0%	23.9%	△0.1 ポイント
最終処分量	10.0 万トン	9.1 万トン	△8.6%
県民 1 人 1 日当たりの 最終処分量	37.1 グラム	33.9 グラム	△8.6%

※端数処理により、計算が合わないことがあります。

2 施設整備状況

(1) ごみ焼却施設の状況

- ・平成 30 年度に新設されたごみ焼却施設はありません。
- ・県内市町村の稼働施設数 47 か所 (処理能力 9,404 トン/日)
- ・うち、発電施設を有する施設 18 施設 (発電能力 9.5 万 kW)

(2) 最終処分場の状況

- ・平成 30 年度に新設された最終処分場はありません。
- ・最終処分量 9.1 万トン/年 (うち県内処分量 4.1 万トン/年)
- ・最終処分場の残余容量 (平成 30 年度末) 185 万 m³
(うち県環境整備センター 105 万 m³)

※ 上記の残余容量は、約 29 年分の最終処分量に相当します。

3 廃棄物処理事業経費の状況

年間の県民 1 人あたりのごみ処理費用は 13,313 円で、前年度に比べて 0.2%増加しました。

	平成 29 年度	平成 30 年度	対前年度※
ごみ処理費用	978 億円	981 億円	+0.3%
(主な費用)			
処理・維持管理費	809 億円	820 億円	+1.4%
建設改良費	130 億円	124 億円	△4.5%
県民 1 人あたりのごみ処理費用	13,288 円	13,313 円	+0.2%

※端数処理により、計算が合わないことがあります。

4 ごみの発生抑制、再生利用の状況

(1) 取組の県内ベスト5

リデュース（廃棄物の発生抑制）やリサイクル（使用済み製品等の原材料としての再生利用）などに関して、県内で上位の市町村は次のとおりです。

なお、リユース（使用済み製品の再使用）については、廃棄処分前の活用となるため、集計の対象としていません。

	市	町村
リデュース (1人1日当たりのごみ排出量) ※県全体 858グラム/人・日	1 富士見市 728グラム/人・日	1 東秩父村 692グラム/人・日
	2 朝霞市 738グラム/人・日	2 滑川町 752グラム/人・日
	3 和光市 739グラム/人・日	3 横瀬町 754グラム/人・日
	4 桶川市 747グラム/人・日	4 皆野町 760グラム/人・日
	5 上尾市 748グラム/人・日	5 吉見町 775グラム/人・日
リサイクル (リサイクル率) ※県全体 23.9%	1 加須市 38.4%	1 宮代町 38.1%
	2 狭山市 32.7%	2 川島町 33.3%
	3 朝霞市 32.3%	3 ときがわ町 29.6%
	4 飯能市 31.6%	4 小川町 28.9%
	5 桶川市 31.4%	5 吉見町 28.6%

・日高市は、可燃ごみのほぼ全量をセメント原料化（リサイクル率99.7%）していますが、ごみの燃焼（焼却）を伴うため、ランキングに含めていません。

(2) ごみ発電の状況（ごみ焼却量当たりの発電電力量）

東埼玉資源環境組合（第二工場）	671 kWh/トン
東埼玉資源環境組合（第一工場）	544 kWh/トン
さいたま市桜環境センター	515 kWh/トン
ふじみ野市・三芳町環境センター	454 kWh/トン
川口市朝日環境センター	445 kWh/トン

・複数の焼却炉で発電している場合は合算しています。

5 県民の皆様へのお願い

限りある資源を有効利用し、地球への環境負荷を減らすためにも、更なるごみの減量化や再資源化を推進していく必要があります。また、ごみを最終的に埋め立てる県内の最終処分場の残余容量には限りがあります。

ごみの分別をしっかりと行うとともに、食べ残しや賞味期限切れ食品の廃棄などの食品ロスを減らし、使い捨てプラスチック製品の使用を控えるなど、できるだけごみを出さないライフスタイルを心がけましょう。